

令和5年度現役世代向けアンケート調査 結果報告書

I 調査の概要および回答者の属性

1 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、市政と関わる機会が比較的少ないと考えられる現役世代（30～59歳）のうち、無作為に抽出された市民に Web アンケートの回答を依頼し、この世代の市民のニーズや行政に対する意識を把握するため、調査を行うものである。

(2) 調査の項目

- ① 国立市に住んでいる理由や定住意向について
- ② 日常生活における満足度や関心について
- ③ 市政との関わりや行政に期待することについて

(3) 調査の設計

- ① 調査区域 国立市全域
- ② 調査対象 国立市在住の満30歳以上59歳以下の男女
ただし、令和5年度に実施した第15回市民意識調査の対象となった者を除く
- ③ 標本数 1,000人
- ④ 標本抽出方法 住民基本台帳に基づく単純無作為抽出
- ⑤ 調査方法 対象者に郵送で通知し、Web アンケートフォームによる回答
- ⑥ 調査期間 令和6年3月15日（金）～令和6年3月31日（日）

(4) 回収結果

- ① 配布数 1,000件
- ② 有効回収数 339件
- ③ 有効回収率 33.9%

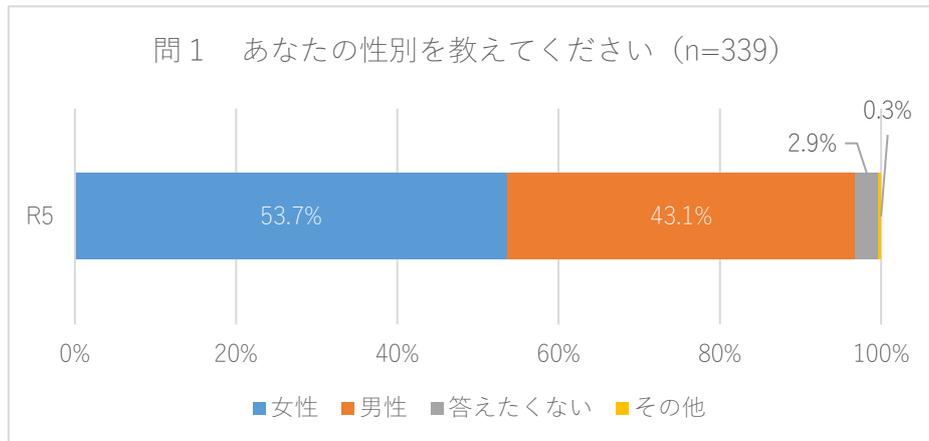
(5) この報告書の留意点

- ① 図表中の「n」は、各質問の回答数を示す。
- ② 回答の比率（％）は、nを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位まで示した。したがって、選択肢の中から1つの回答を選ぶ質問であっても、すべての選択肢の比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ③ 選択肢の中から複数の回答を選んでもよい質問では、各質問文の末尾に「(複数選択可)」の文言を示した。これらの質問は、すべての選択肢の比率を合計すると通常100%を超える。
- ④ 文字数が多い一部の選択肢については、結果を説明する文章中で、かっこ内の記述を省いて簡略化して示した場合がある。なお、図表中では、簡略化せずすべての文字を示した。

2 回答者の属性

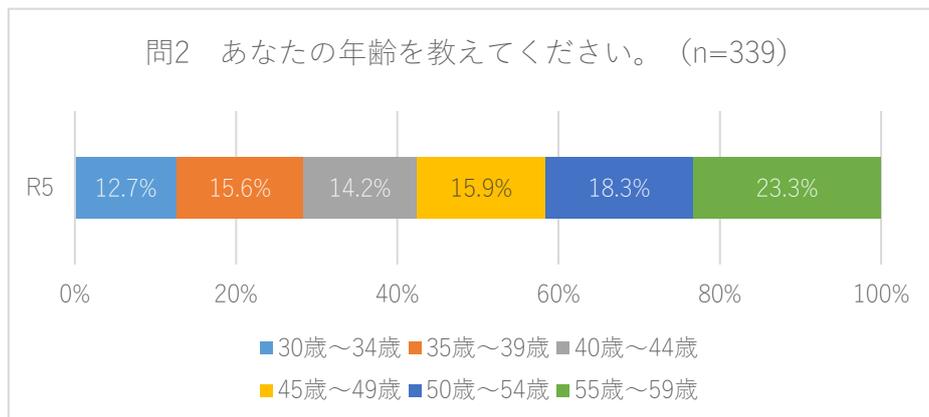
(1) 性別

回答者の性別については、「女性」が53.7%、「男性」が43.1%、「答えたくない」が2.9%、「その他」が0.3%となっている。



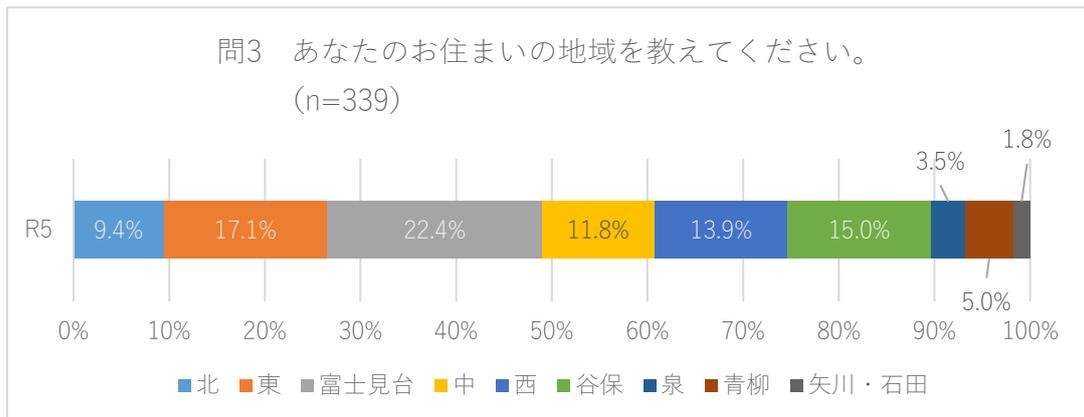
(2) 年齢

回答者の年齢については、「55歳～59歳」が23.3%で最も多く、次いで「50歳～54歳」18.3%、「45歳～49歳」15.9%の順となっている。



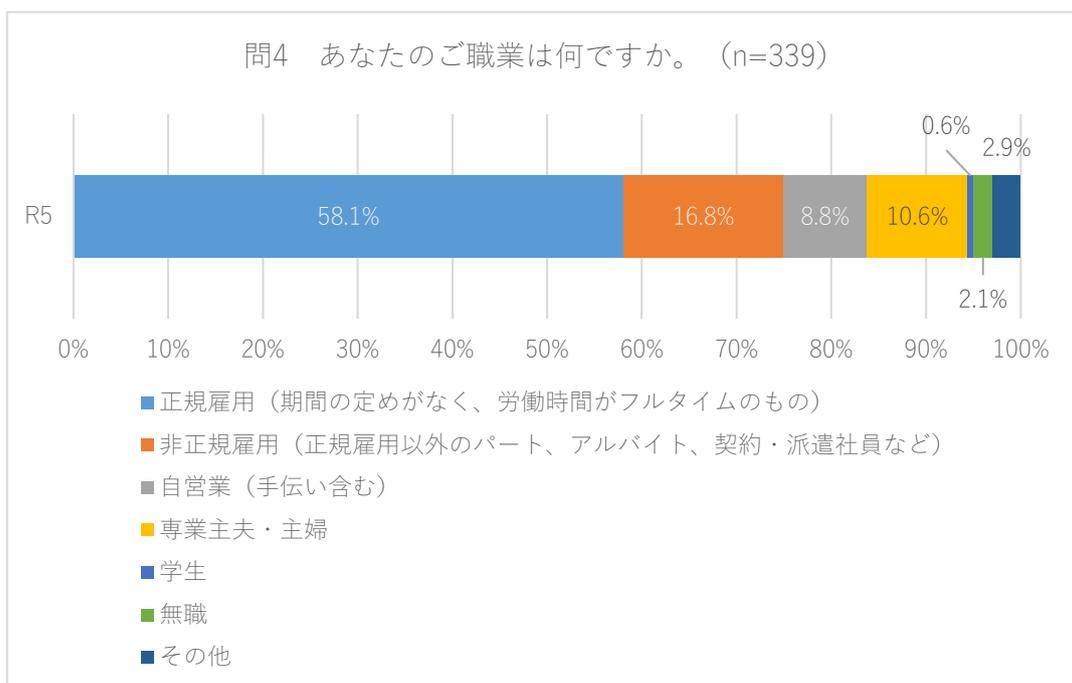
(3) 居住地

回答者の居住地については、「富士見台」が22.4%で最も多く、次いで「東」17.1%、「谷保」15.0%の順となっている。



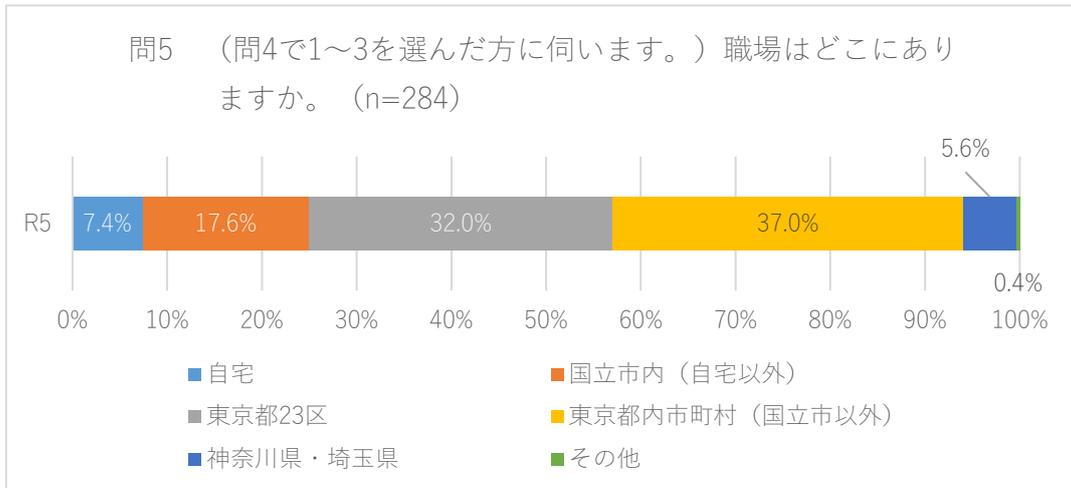
(4) 職業

回答者の職業については、「正規雇用」が58.1%で最も多く、次いで「非正規雇用」16.8%、「専業主夫・主婦」10.6%の順となっている。



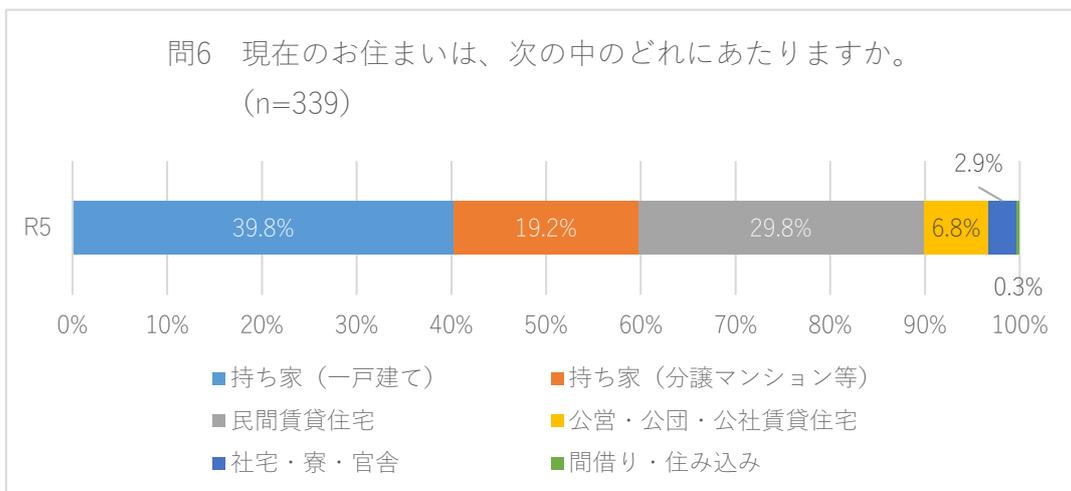
(5) 職場

回答者の職場については、「東京都内市町村（国立市以外）」が37.0%で最も多く、次いで「東京都23区」32.0%、「国立市内（自宅以外）」17.6%の順となっている。



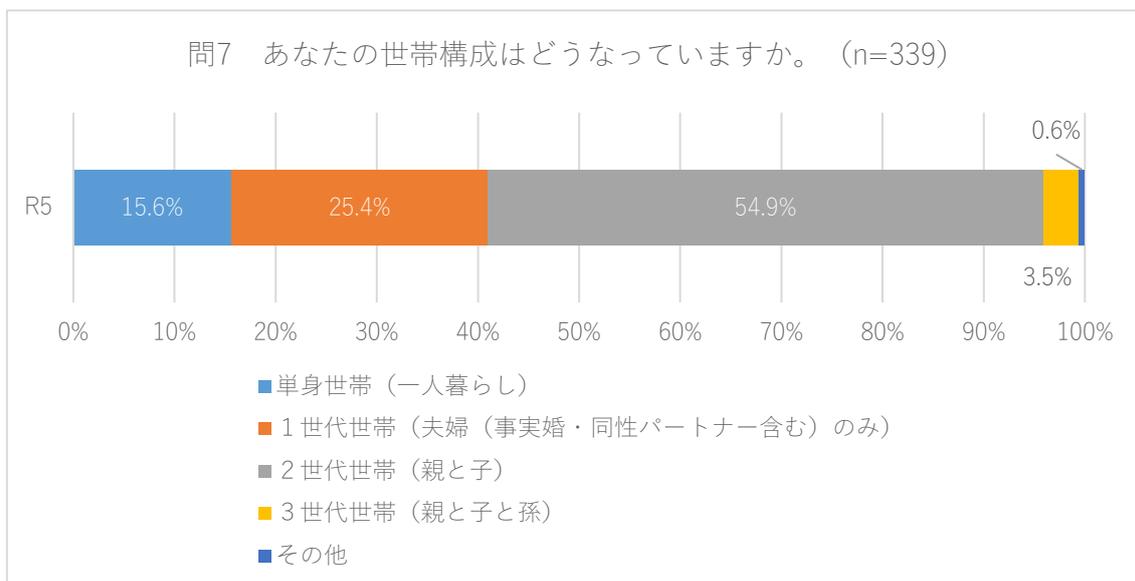
(6) 住居形態

回答者の住居形態については、「持ち家（一戸建て）」が39.8%で最も多く、次いで「民間賃貸住宅」29.8%、「持ち家（分譲マンション等）」19.2%の順となっている。



(7) 世帯構成

回答者の世帯構成については、「2世代世帯」が54.9%で最も多く、次いで「1世代世帯」25.4%、「単身世帯」15.6%の順となっている。

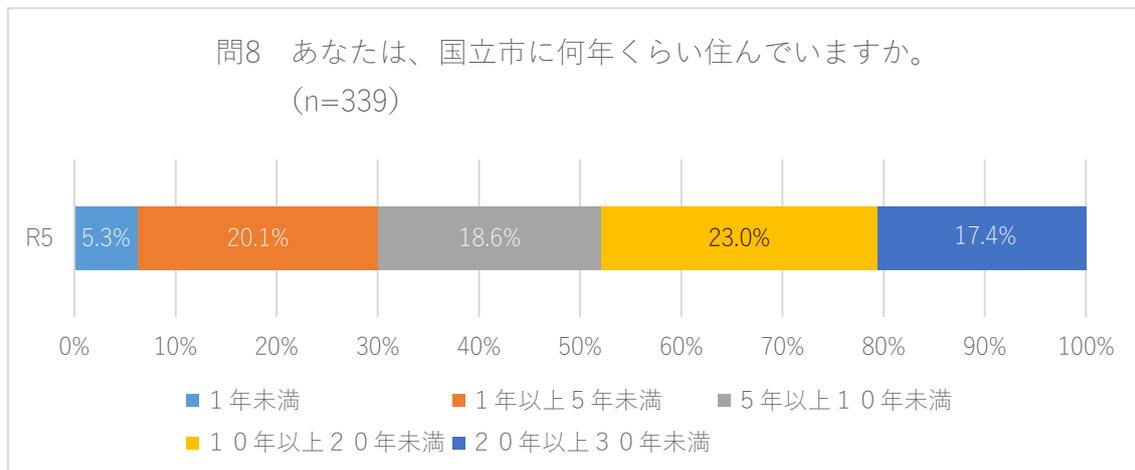


II 調査結果

1 定住意向

(1) 居住年数

現役世代の居住年数については、「10年以上20年未満」が23.0%で最も多く、次いで「1年以上5年未満」20.1%、「5年以上10年未満」18.6%の順となっている。

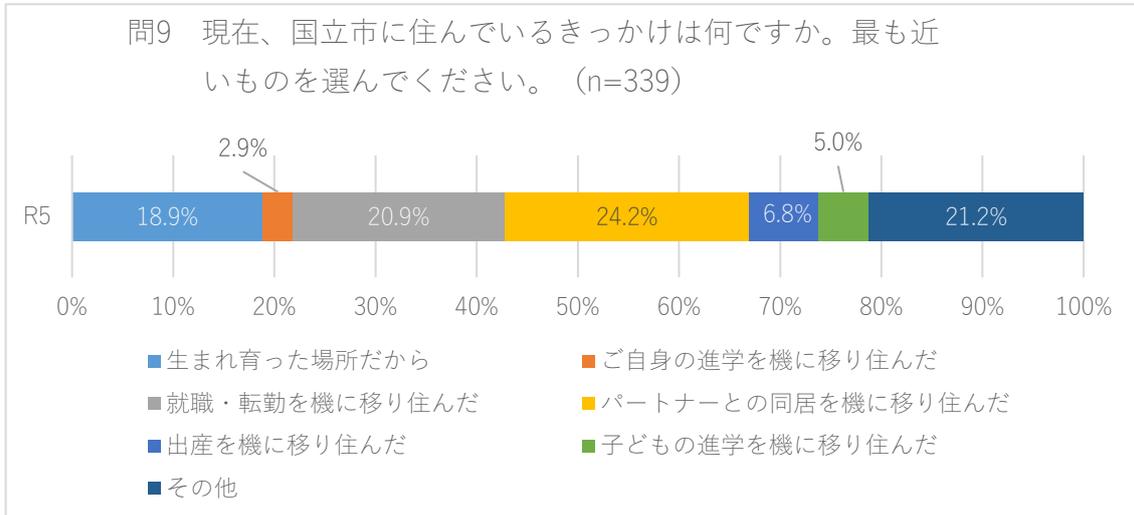


なお、これを回答者の年齢別に集計すると、下表のとおりとなり、年齢が高くなるにつれて居住年数も長くなる傾向にある。また、それぞれの年齢層における居住年数の最大割合が年齢マイナス30年付近にあることが読み取れるため、ここ20年程度の傾向として、おおむね30歳前後で国立市に移り住む世帯が最も多いことがわかる。

年齢別居住年数	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳
1年未満	11.6%	13.2%	0.0%	3.7%	3.2%	2.5%
1年以上5年未満	44.2%	30.2%	25.0%	13.0%	6.5%	12.7%
5年以上10年未満	23.3%	26.4%	31.3%	20.4%	6.5%	11.4%
10年以上20年未満	2.3%	13.2%	27.1%	38.9%	32.3%	20.3%
20年以上30年未満	14.0%	0.0%	6.3%	9.3%	35.5%	29.1%
30年以上	4.7%	17.0%	10.4%	14.8%	16.1%	24.1%

(2) 居住のきっかけ

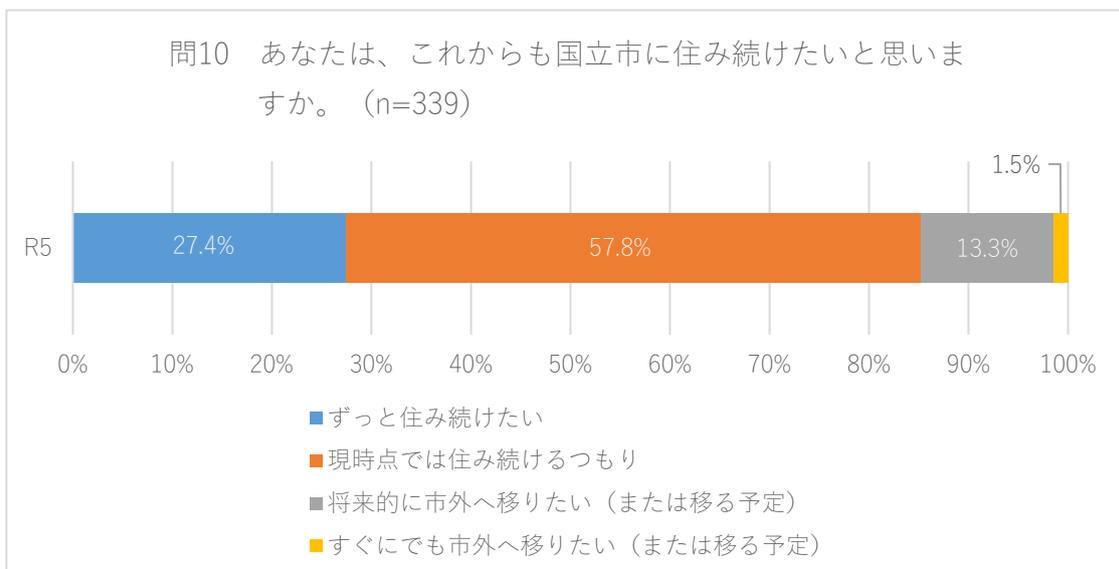
国立市に住んだきっかけについては、「パートナーとの同居」が24.2%で最も多く、次いで「就職・転職」20.9%、「生まれ育った場所」18.9%の順となっている。また、「その他」が21.2%と多くなっているが、その多くは国立市の治安・環境の良さを挙げるものや、住宅を購入したためといった回答となっている。



(3) 定住意向

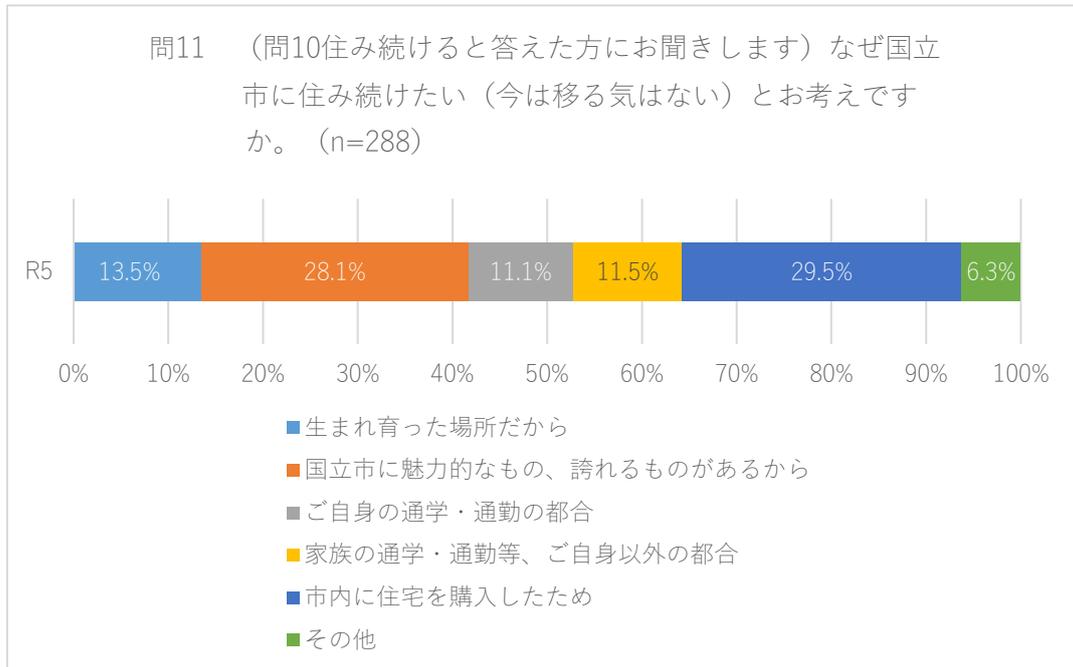
これからも国立市に住み続けたいかについては、住み続けたい現役世代の割合（「現時点では住み続けるつもり」「ずっと住み続けたい」の合計）は85.2%であり、市外へ移りたい人（「将来的に市外へ移りたい」「すぐにでも市外へ移りたい」の合計）の割合14.8%を大きく上回っている。

なお、令和5年度に実施した第15回市民意識調査における国立市に住み続けたい市民の割合は83.1%であり、ほぼ同水準の値となっている。



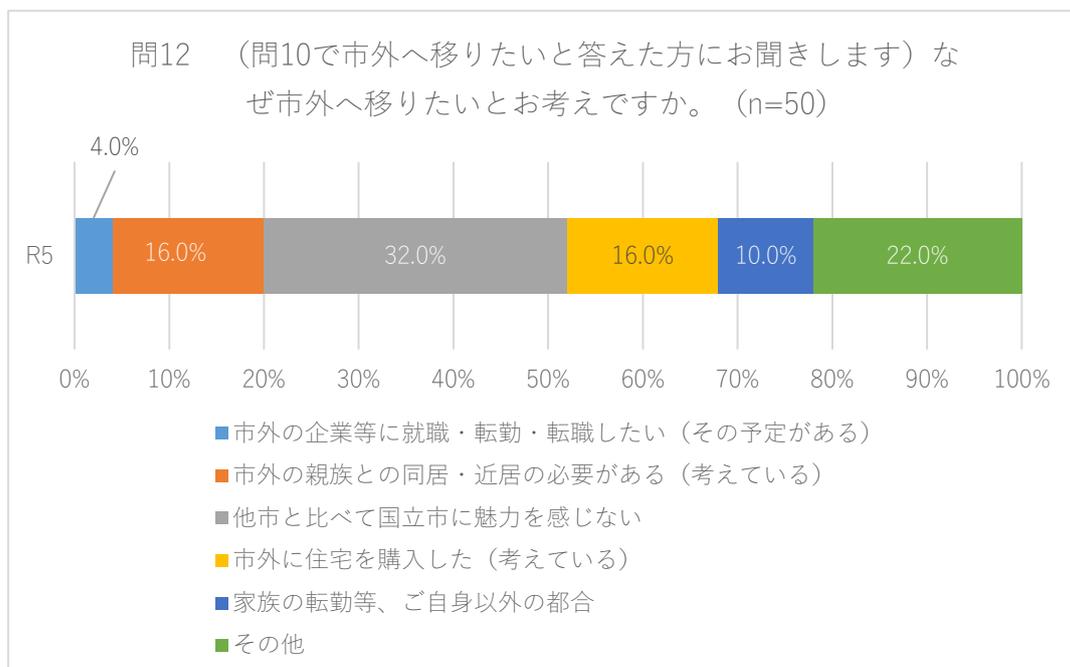
(4) 定住理由

これからも国立市に住み続けたい理由については、「市内に住宅を購入したため」が29.5%と最も多く、次いで「国立市に魅力的なもの、誇れるものがあるから」28.1%、「生まれ育った場所だから」13.5%の順となっている。



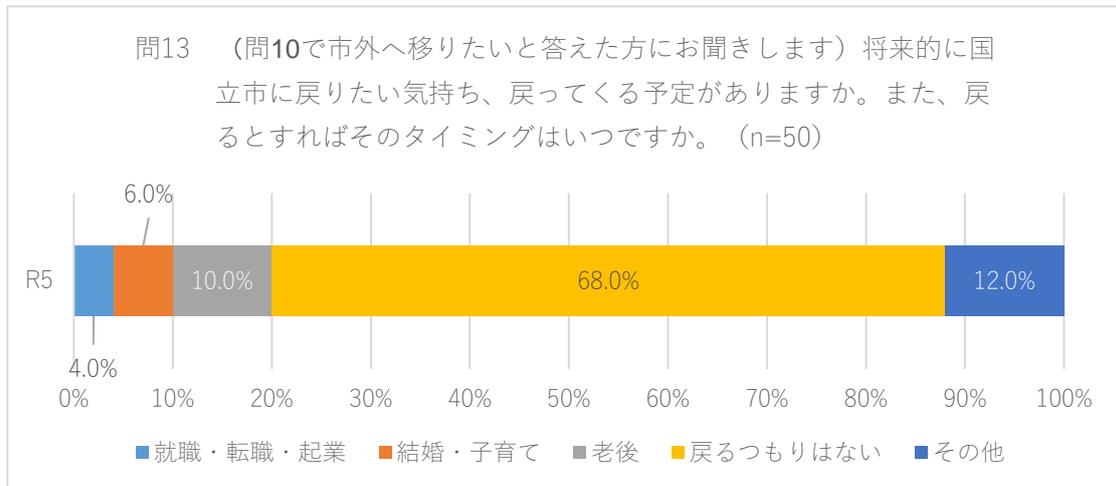
(5) 転出理由

国立市から他の自治体に移りたい理由については、「他市と比べて国立市に魅力を感じない」が32.0%と最も多く、次いで「市外の親族との同居・近居の必要がある」16.0%、「市外に住宅を購入した」16.0%の順となっている。



(6) Uターン意向

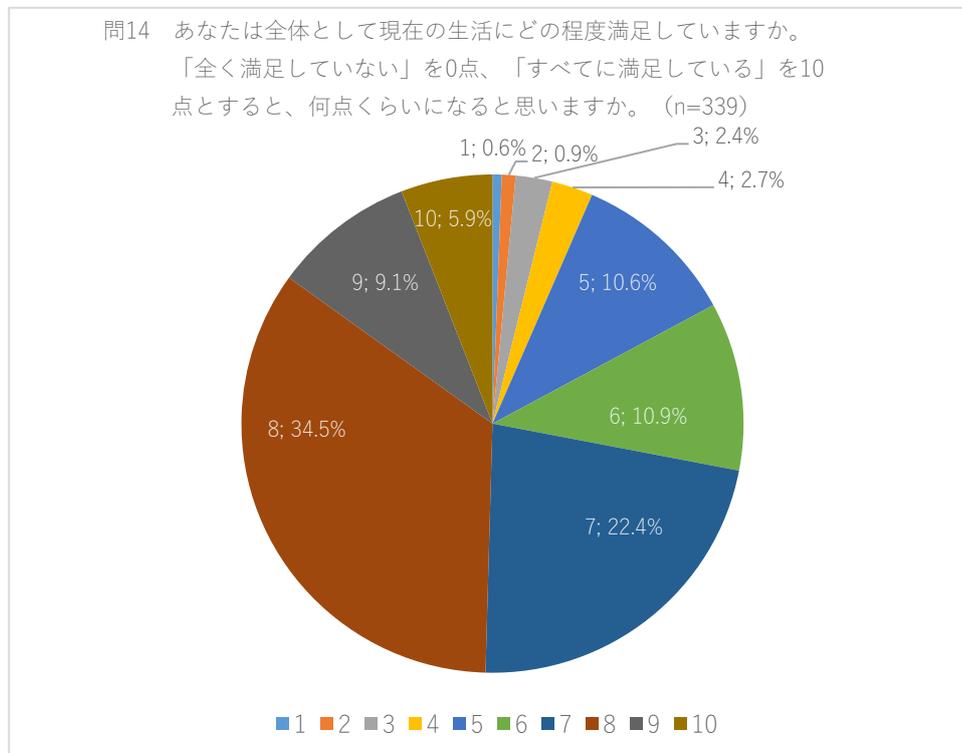
市外へ移りたい人が、将来的に国立市に戻ってくるつもりがあるかについては、「戻るつもりがない」が68.0%と最も多く、次いで「老後に戻る」10.0%、「結婚・子育てのタイミングで戻る」6.0%の順となっている。



2 満足度・関心

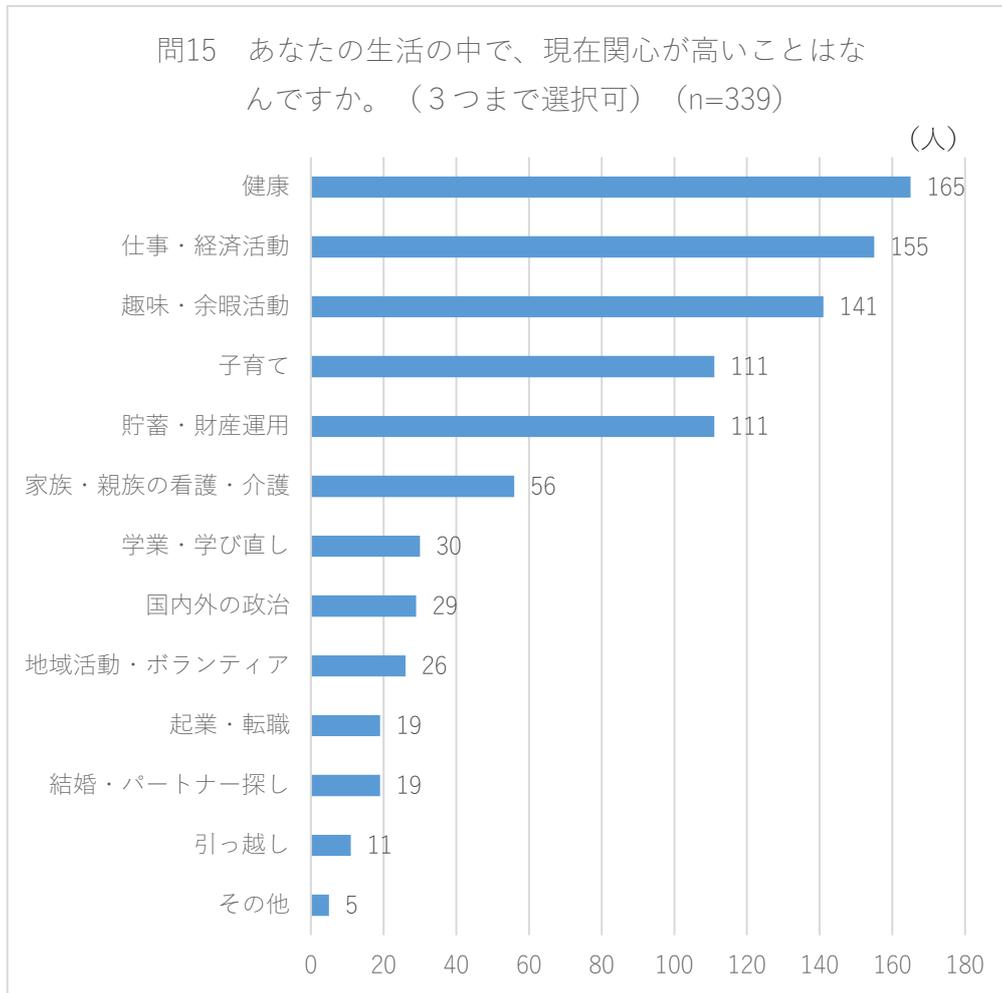
(1) 生活満足度

生活全体の満足度について、「0」を最低、「10」を最高として調査したところ、「8」が34.5%と最も多く、平均値は「7.1」、中央値は「7」となっている。このことから、現役世代の生活満足度は比較的高いことがわかる。



(2) 関心のあること

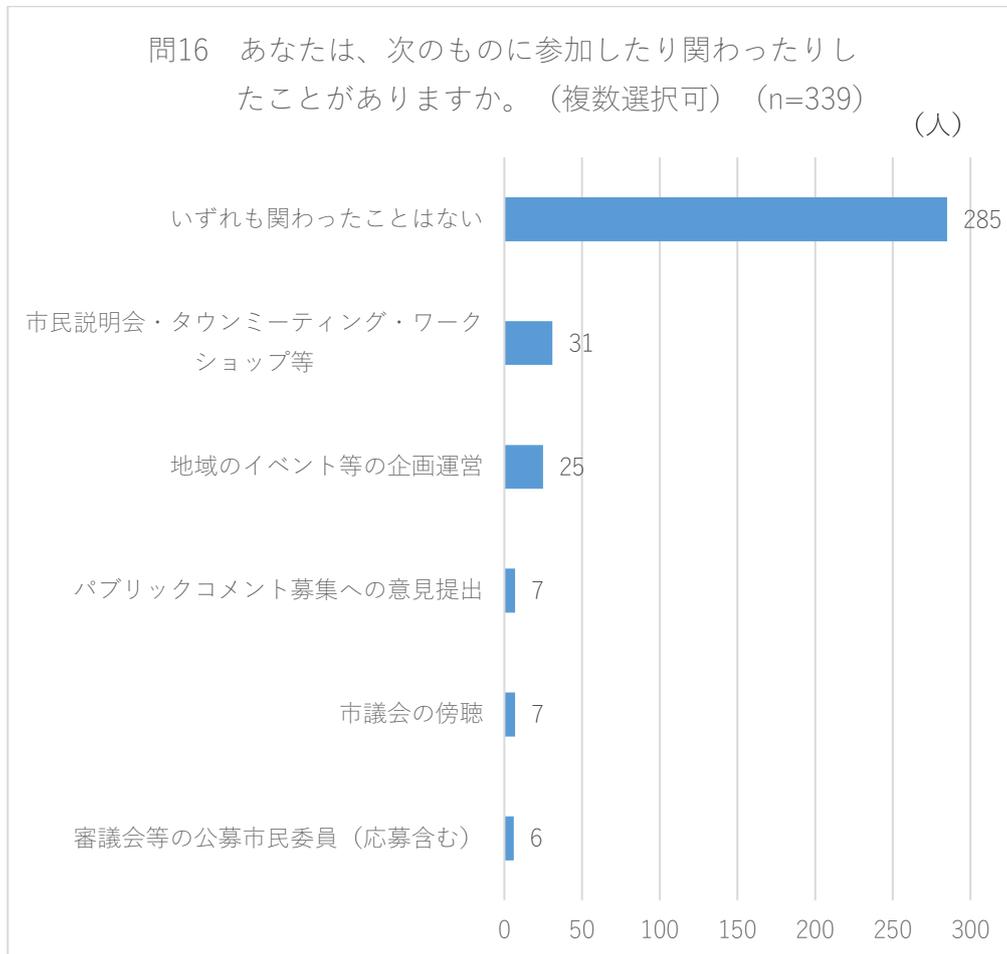
生活の中で関心のあることについては、複数選択式（最大3個）で調査したところ、「健康（165人；48.7%）」が最も多く、次いで「仕事・経済活動（155人；45.7%）」、「趣味・余暇活動（141人；41.6%）」の順となっている。



3 市政に関する項目

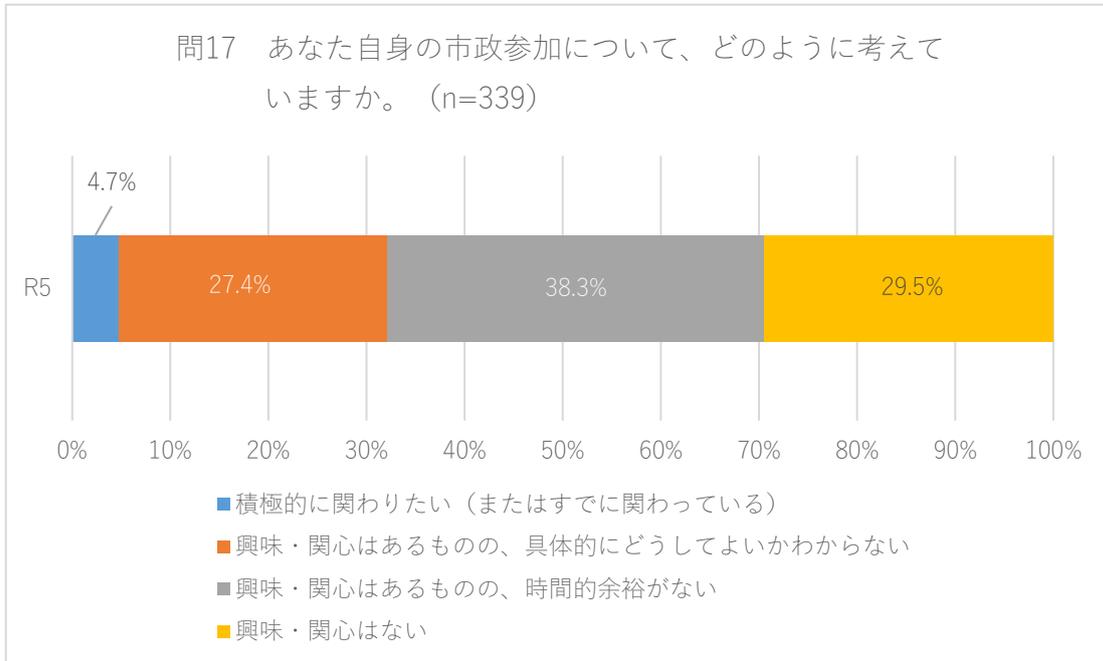
(1) 市政参加実績

市政への参加については、複数選択式で調査したところ、用意した選択肢の「いずれにも関わったことはない」が285人(84.1%)と最も多く、参加したことがあるものの中で最も多いのは「市民説明会・タウンミーティング・ワークショップ等」の31人(9.1%)となっており、現役世代の市政参加実績はかなり少数であることが明らかとなった。



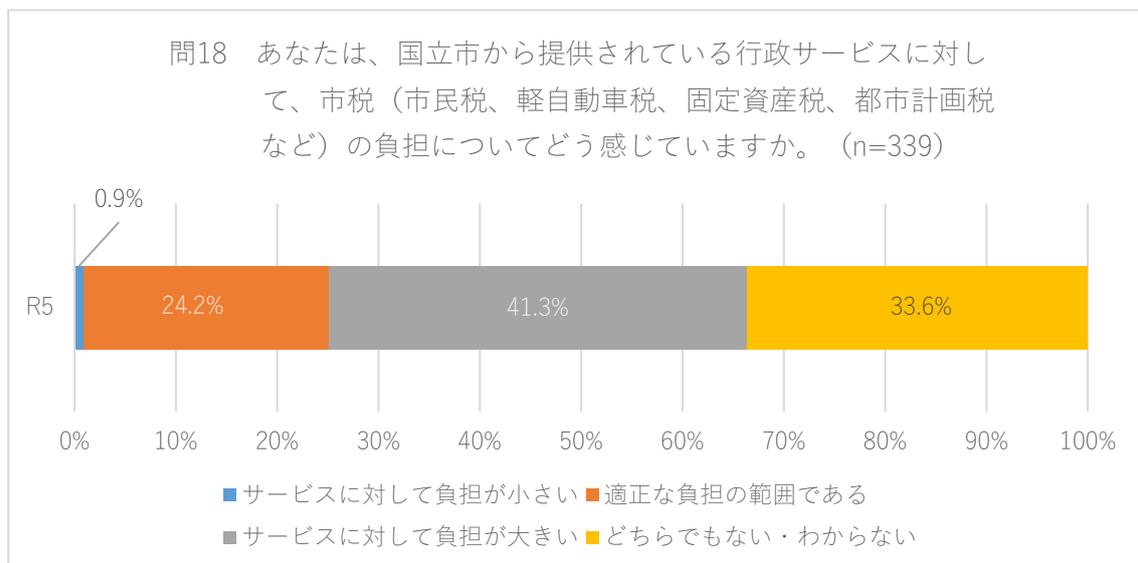
(2) 市政参加への態度

市政参加に関する態度については、興味関心はあるものの、参加できていない割合が合計 65.7%となっており、その内訳は「時間的余裕がない」が 38.3%、「具体的にどうしてよいかわからない」が 27.4%となっている。また、そもそも「興味・関心はない」と回答した人も 29.5%に上り、現役世代の市政との関わりの薄さが浮き彫りとなった。



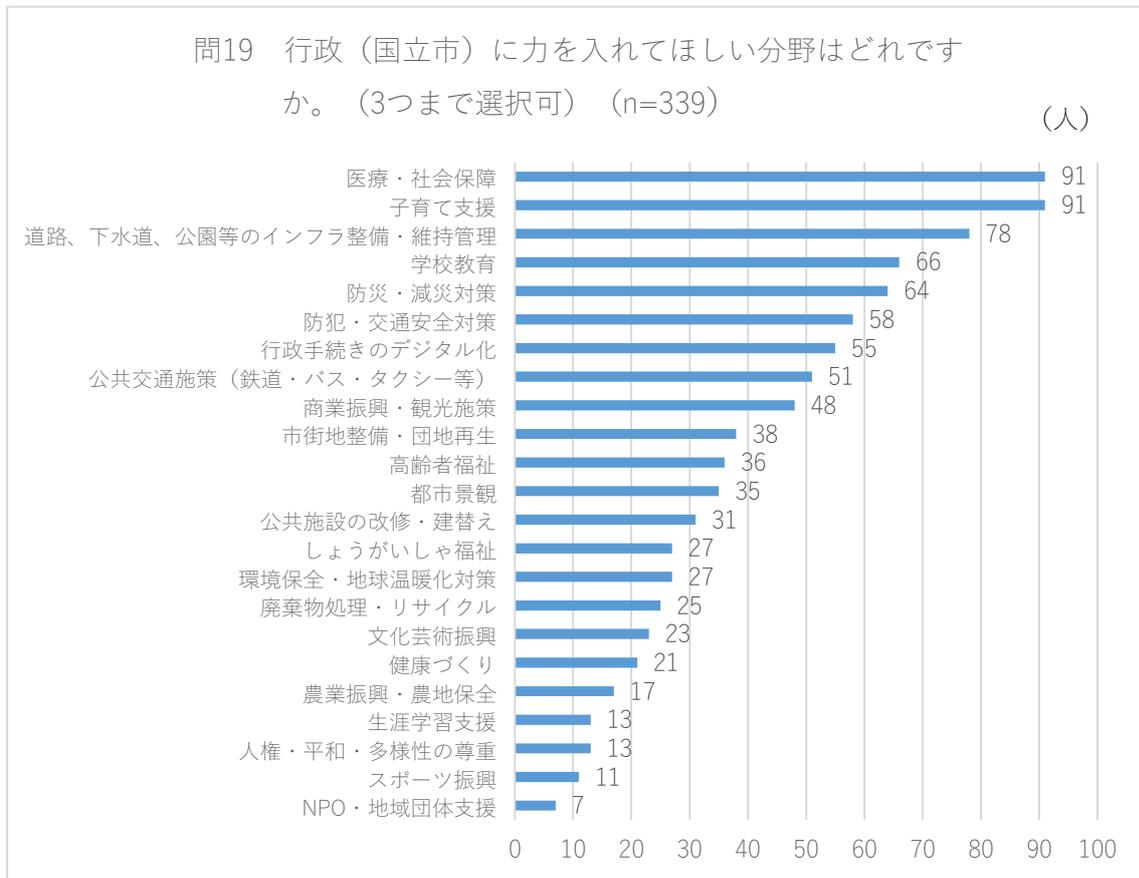
(3) 市税の負担感

行政サービスに対する市税の負担については、約 4 割が「サービスに対して負担が大きい」と回答しており、主な納税者である現役世代の負担感が大きいことを示している。



(4) 市政への期待

市に力を入れてほしい行政分野については、複数選択式（最大3個）で調査したところ、「医療・社会保障（91人；26.8%）」と「子育て支援（91人；26.8%）」が最も多く、次いで「道路、下水道、公園等のインフラ整備・維持管理（78人；23.0%）」、「学校教育（66人；19.5%）」の順となっている。



4 市に対する要望等

本調査では、市に対する意見、要望、提案等について自由記述式で調査を行った。有効回答数は136件（40.1%）であり、様々な意見や要望が寄せられた。内容をキーワードと態度（ポジティブ／ネガティブ）により分類したところ、主なものは下表のとおりであった。

ポジティブ（＝現状に満足している、好意的な受け止め）

キーワード／分野	回答数
自然	5
市政全般	4
まちの魅力	3
文教地区	2
景観	2

ネガティブ（＝現状に不満、要望事項あり）

キーワード／分野	回答数
交通安全	10
自転車利用	9
公共交通	8
子育て支援	7
ごみ対策	7
図書館	7
まちの魅力	6
商工振興	6
税負担	5
道路	5
学校教育	5
フルインクルーシブ教育	5
給食費	5
公園	5

全体として、ポジティブな意見（＝満足、感謝）よりもネガティブな意見（＝不満、要望）が多い傾向にあった。また、具体的な要望も多く、交通関係やごみ、図書館など普段の生活に密着した要望内容が多く見られた。なお、数は少ないが今回の現役世代向けアンケートそのものに対する好意的な意見も寄せられた。